

平成 31 ( 令和元 ) 年度 学校 自己 評価 表 ( 最終 評価 )

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心</p>
---------------------------	--

<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 学力の向上と進路実現 (1) 授業規律と学習習慣の確立 (2) 力をつける授業、生徒が主体的に取組む授業の工夫 (3) キャリア教育の充実 2 自主自律と協調性の育成 (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成 (3) 質の高い部活動の実践 3 学校の魅力化 (1) コースの発展・充実 (2) 「地域探究の時間」の発展・充実 4 学校における安全確保の徹底 5 業務改善の取組の推進</p>
-----------------	--

評価基準 A:十分達成 (90%) B:概ね達成 (70%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (35%程度) E:目標・方策の見直し (20%以下)

評価項目	具体項目	目指す姿	年 度 当 初		評 価 結 果		
			現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学力の向上と進路実現	授業規律と学習習慣の確立	○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取組んでいる。 ○多様で深い学びを通じて、生徒の学習への主体性を引き出すことが出来ている。 ＜指標＞教員アンケート「生徒が授業に集中して取り組んでいる」の評価AとBと合わせて70%以上。生徒の家庭学習時間1日平均1時間30分以上。	○おおむね授業規律は良い。また、始業時間に遅れる生徒が授業の用意が不十分な生徒もわずかである。 ○普段、授業の予習や復習をしなかったため、課題提出を求められる、また、定期考査や小テスト・単元テストの前だけ家庭学習をするという生徒が一部に見受けられる。	○評価方法を周知徹底する。平常点も重視されることから、教師が授業開始時間を必ず守り、チャイムとともに授業が始まるよう生徒に指導するとともに、教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習の指示を具体的に示し、提出物についてもこまめに確認する。また、学習についてこれない生徒・気になる生徒については課外や面談等を行い、関係職員と連携し対処する。 ○生徒が授業に集中できる環境づくりを行う。そのために、学年会・教科会・支援会議等で情報交換を行い生徒理解に努める。	○評価方法・平常点については周知されているが、わずかながら、いまなお授業に遅刻する生徒がいる。 ○課題等の提出状況について詳細に確認。また、学習についてこれない生徒については考査前に学習会を持った。(2,3学期) ○授業態度等の気になる生徒については情報を集約・共有し、教科担当者に参加してもらい学年会をもって対応を協議した。 ○指標について、教員アンケート「生徒が授業に集中して取り組んでいる」がAとBと合わせて70%以上に対し22%(生徒アンケートでは82%)、生徒の家庭学習時間1時間30分以上に対して、11月の考査前調査では3年特進クラス以外は達成できていない状況にある。	C	○指標の達成度でわかつとおり、教員と生徒では授業の取り組み姿勢の評価に大きな差がある。再度、求められる授業への取り組み姿勢と平常点の付け方について生徒に説明する必要がある。 ○課題等の提出状況や成績面で気になる生徒への指導が一貫したものとなるよう、今後も継続的に協議していく。 ○来年度からキャリアパスポートが導入されるので、それを活用する形で学期ごとに自分の態度等を振り返り記録させる。
	力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫	○学習効果が高い授業により、学力を高めている。 ○多様で深い学びを通じて、生徒の学習への主体性を引き出すことが出来ている。 ＜指標＞生徒アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AとB合わせて70%以上。	○生徒の基礎学力に差がある中、その向上に努力している。 ○公開授業などを通して授業の工夫を共有し、生徒の学力が十分に定着できるよう努力をしている。 ○授業におけるiPadの利用やClassiの導入等で、授業の進め方を変えつつある。	○授業中の内容や発問を絶えず検証し、授業力の向上に繋げている。 ○個別指導等により、弱点の克服を行い、その上で、授業内容を高めていく。また、それらの内容については各教科会や校内の委員会等で検証していく。 ○校内・校外の研修会や授業研究会に積極的に参加し、生徒理解と授業力の向上に努める。	○授業力の向上の取組については、公開授業を各学期に計画し、原則1回は全教員が行うとともに、教科会等で校外模試の過年度比較を行うなど分析し、対策を協議した。 ○長期休業中には成績不振者課外を実施し、弱点の克服に取り組んだ。 ○授業内容を高めていく取り組みについては、校外の研修会や授業研究会に積極的に参加するとともに、校内でもアクティブラーニング研修(数学、理科)を実施した。(10月17日、2月13日) ○指標について、生徒アンケートでは「授業に満足している」が64%。	B	○アクティブラーニング研修を、他教科でも実施し、今後も授業力の向上に努める。 ○来年度、Classi導入が完成するので、タブレット端末等を用いた効果的な利用法、生徒の利用率の向上について検討を進めていく。
	キャリア教育の充実	○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 ○選択科目のグループ化により、進路実現に向けた学びの環境を整えている。 ＜指標＞生徒アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AとB合わせて80%以上。	○アンケート結果では「明確な進路目標を持っている」生徒の割合が75%前後で推移している。しかし、目標達成への道筋がイメージできず、具体的な行動に移せない生徒や、目標を下げてしまう生徒の姿もある。 ○進路実現に向けた学びの環境を整えつつあるが、生徒が学びに向きあうまでに時間がかかっている。	○早期から生徒の視野を広げ、具体的な将来設計を描くことができるような働きかけを行う。 ○それぞれの時期における指導テーマを明確に生徒に伝え、上での、進路面談を繰り返し行いながら、組織的に進路指導を行う。 ○上記の実現のために、他分掌との連携を深める。	○アンケートの結果「明確な進路目標を持っている」生徒の割合は77%。 ○各学年とも、進路検討会などを通じて進路指導方針を共有した。その上で、進路目標に応じた科目選択、高い志望の維持など、それぞれの時期に応じた進路指導を行うことができた。 ○各担任を中心に丁寧に面談指導を行った。職員の意識を揃えながら模試結果などを生徒にフィードバックし、面談の中に活かすことができた。	A	○進路指導部としては、今後LHRの企画をさらに充実させ、面談材料となる資料を提供できるようにしていく。 ○「明確な進路目標を持っている」生徒の割合を、1年70%、2年80%、3年90%とし、1年次から具体的な目標を持たせるようにさらに指導していく。
自主自律と協調性の育成	基本的な生活習慣の確立	○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 ＜指標＞遅刻者数の減少。頭髪・服装指導対象者数の減少、問題行動発生件数の減少。	○昨年度は、遅刻が増加し遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は基本的な生活習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取り組もうとしている。	・5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物などについての各指導票を徹底する。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導。	○遅刻に対する認識が甘く、人数も昨年より大幅に増加した。遅刻届も催促しないと出ない状況があり、ルーズな面が増えた。校内規定の遵守も甘い。 ○5Sの励行により、教室整備もされているが、クラスや場所によって個人のゴミがあるなど差が大きくまだまだ行き届いておらず、意識の向上が望まれる。 ○交通ルール・公共マナーについても、場面によっては認識の甘い行動が見られる。道徳的説諭を継続し必要がある。	C	○教員間の連携を密にすることで、小さい集団からポイントを絞って指導、説諭を継続することで、徹底させることを学ばせる。 ○5S等の必要性やルール、マナーを守ることを理解し、物事に対する考え方の改善が見られる。生徒個々の物事に対する考え方を改善し、基本的習慣の確立に近づける。
	生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成	○どの生徒も生徒会活動や学校行事に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。 ○どの生徒も学校行事を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ＜指標＞生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて85%。また、生徒アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AとB合わせて85%以上。	○縦横のつながりが希薄で、執行部・育英祭実行委員・応援団・各委員会活動も含め、生徒会活動に主体的に参加する生徒もいるが、全体としての意識は薄い。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が全体像をイメージできておらず、連携がまだまだであり、協調性もほしい。	○執行部と委員会、部活動が連携し目標を見える化することで全校生徒への取組を促す。挨拶運動、クラスごとの遅刻者延べ人数がわかるボードの設置、放課後の教室点検、部室一斉清掃等を行う。 ○実行委員会や執行部会の回数を増やすことで、全体を把握させ、全校生徒への指示を目的も含め明確にし、全校生徒が活動できるようにする。	○挨拶運動は定着してきた。遅刻指導はボードを設置しSHRで生活委員に報告させているが遅刻者が減らない。教室環境はきれいになりつつある。 ○育英祭、球技大会等を生徒会執行部が中心となって役割を果たし、おおむね実施できた。	B	○挨拶運動、教室環境は継続。遅刻者を減らすために学年集会で執行部に結果報告させる。反省を促すため、挨拶運動に参加させようとしたが、徹底できていないので強化する。または、清掃活動に参加させる。 ○これまで以上に余裕を持って計画を立てさせる。来年度の素案を年度内に完成させる。
	質の高い部活動の実践	○全校生徒が部活動に積極的に参加し、質の高い活動により、県大会優勝など高い実績を上げている。また、スポーツ重点校の生徒として、トップアスリートを目指して、部活動に励んでいる。 ○自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。 ＜指標＞県大会優勝6部。全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ150名	○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。(昨年度) ・部活動加入率全体92% 県大会優勝7部(個人含む)、全国大会への出場は7部、延べ125名	○定期的に部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをする。(9月末に調査し生徒総会で促す) ○生徒会執行部・応援団を中心に各部の活動を応援するとともに、結果についても広く全校に広報していく。ホームページの掲載を積極的に依頼する。 ○年間及び月間計画に基づき練習方法の改善に努め、より効果的な部活動の運営を行う。	○人数チェックはしたが、加入促進に至っていない。 ○例年通りの壮行会や表彰伝達式はできたが、発展させることはできなかった。ホームページの更新に関しては各部顧問のみ任せってしまった。 ○部活動の練習状況の点検は考査期間中のみとなった。練習方法の改善等も部活に働きかけるだけの形となってしまっている。 ○県大会優勝6部、全国大会出場8部を達成し、全国大会出場者数はのべ142名である。	B	○部活動加入促進について、学年主任、担任には結果を報告したが、生徒会でも未加入者を集めて話をした。 ○ホームページのチェックを行い、更新を促す。 ○部活動の練習方法等の改善について、月間計画の確認等を通じて実施する。 ○全国大会出場者数の指標が達成できるよう、各部とも練習の効率化を図りながら部活動に取り組む。
学校の魅力化	コースの発展・充実	○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬する中で、意識レベルを高めて、部活動はもとより、学校生活において範となる生徒を育成している。 ○普通コースは、上級学校への進学等、進路実現を果たすための学力と人間力をしっかり身につけている生徒を育成している。 ＜指標＞学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。また、国立大学5%以上、私立大学20%以上、就職率100%の進路実現を達成する。	○体育コースの生徒が、部活動の面でリーダー的な役割を果たしている。学校生活においてもリーダー的な役割を果たしていく必要がある。(生徒会、応援団など) ○普通コースの上級学校進学率は、例年半数程度あるが、そのうち競技を継続する生徒は若干名である。 ○昨年度の国立大学現役合格者は4名で前年度と変わらなかった。また、昨年度は体育コースからの国立大合格者が復活した。 ○普通コースでは、進路面談等きめ細かい指導が行われ、安易な進路決定をしない雰囲気醸成され、取組が充実しつつある。	○定期的に体育コース集集を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。 ○スポーツ・文化芸術活動重点校として体育コースの各種事業や実習等を通じて、人間性や協調性を養い、競技力向上に繋げる。 ○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見出す指導と高い志の育成、将来指導者となる人材の育成を行う。 ○特進クラスの充実に取り組み、国立大を希望する生徒を増やし、意識付けと実力養成を図る。また、他のクラスでも私立大学の全体的な難化を考慮し、きめ細かい指導の充実を図り、高い意識を持たせ魅力あるクラスにする。	○4月当初に体育コースオリエンテーションを実施し、コースの一員としての自覚を高めてスタートできたが、その後のコース集集では集団としての意識付けの面で不十分な部分があった。 ○「メンタルトレーニング講習会」「トップアスリート講演会」「指導者研修」や各種実習を、予定通り実施することができた。 ○3年生体育コース生徒は大学進学者及び就職者を含めて、3分の1の生徒が競技を継続することになった。 ○特進クラス充実に向け、本年度も2年生に岡大研修を実施し、さらに教育課程委員会・教科会・特進クラス担当者会等で校外模試の分析をするなど3年間を見据えた指導の流れを検討した。また、他クラスの生徒を含めた大学進学希望者対象に放課後課外や自主学習会を毎日開催した。推薦入試では、指導担当教員をつけてきめ細かい指導を行い、ほぼ希望に添った結果を得た。	B	○今後も継続して、体育コース集集を開催し、生活習慣・学習習慣の規律の徹底を行う。 ○体育コース充実事業の「トップアスリート講演会」「メンタルトレーニング講習会」「環太平洋大学宿泊研修」を今後も充実・継続させる。 ○体育コースからの上級学校への進学意識を持たせるために、早い時期から、個人面接を行い、意識付けさせる。 ○来年度は1,2年生の進路探究の時間を増やし、今以上に多くの生徒に高い目標を持たせるべく、早期の指導を行う。 ○新しい教育課程のR4年度実施に向け、教育課程委員会等を通じて継続的に検討を進め、充実した教育課程の実現を図る。 ○特進クラスの充実に向け、これまで以上に授業進度の適正化や定期考査問題の充実を継続して進める。
	「地域探究の時間」の発展・充実	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組む、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。 ＜指標＞TMT(地域探究の時間で身につけた力)アンケート調査において、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力が向上している。	○「地域探究の時間」は5日目を迎え、新入生についても入学時にすでに学習に対する意識が高まっている。 ○1年生は「地域探究入門」、2年生は「地域探究の時間」、3年生は「個別探究学習」において地域についての知識を深め、関心を高める学習プランができており、特に2年生の活動については意欲的に活動に取り組む姿が見られる。	○地域の講師の方々と連携を密にとり、状況に応じた役割分担を行い、様々な視点から教育的効果の向上をはかる。 ○2年生の活動では年間の学習スケジュールを見据え段階的なTMT育成を行う。 ○1年生の入門では協同学習力や主体性の向上を意識した学習を行う。3年生の個別学習については生徒の進路希望を適宜把握しながら進路実現につながる学習を行う。	○活動を進める中でグループごとの担当講師と教員とがこれまでに以上に連携し活動を進めた。情報交換・連携が不足したグループもあり、講師・教員から反省点が与えられている。 ○活動が進むにつれ生徒の取り組み姿勢に変化が現れ、TMT自己評価でも力の向上を実感する結果となっている。 ○1年生の入門活動では探究学習には協同する力の必要性を感じながら成果物の作成を行った。3年生の個別学習では個々の進路希望に沿って進路実現につながるサポートを行った。	B	○グループ担当の講師と担当教員との年度初めの情報交換、研修等をより綿密に行う。 ○TMTの向上が学校活動全体につながるような仕掛けを工夫していくことで教科横断的な教育活動にしていきたい。 ○本格的な活動となる2年生の活動に反映され、効果的な教育活動になるよう、1年生の入門活動での反省点を各グループ担当講師・教員へ引継ぎ、3年生での個別学習では引き続き個々の進路希望に沿った手厚い指導を継続する。
	学校における安全確保	学校教育活動における安全確保の徹底	○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りを取り組んでいる。また、事故等の未然防止、初期対応のとれる体制を整えている。 ＜指標＞学校における事故等の減少。救急救命講習等の予定どりの実施。	○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。それ以外の学校生活においても、事故防止のために安全対策の徹底に努めていくことが必要である。	○救急隊員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を実施し、全員の受講に努める。 ○校内危機管理マニュアルの点検を行い、安全対策の再確認を行うとともに、その周知徹底を図る。	○救急救命講習については12月に実施し、教職員・運動部部員は全員受講するとともに、文化庁代表者にも受講を促した。 ○学校危機管理マニュアルに新たな危機事象を追加し、周知徹底に努めた。また、緊急搬送のマニュアルを各部署ごとに配付した。 ○災害発生件数については、昨年度より減少した。	A
業務改善の取組の推進	業務内容の見直しと時間外業務の縮減	○各分掌・学年において、業務内容の見直しが進み、業務改善への道筋をつけている。 ○部活動の適切な休職日の設定や業務の洗い出しにより、時間外業務の縮減を図られている。 ＜指標＞月当たりの時間外業務が平成29年度比15%減となっている。	○学年・分掌業務の他に、取組や目的、準備体制の重複等で、効率化の余地がある。 ○休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。	○各分掌において、優先順位の低いものについて1つ以上の業務を削減する。 ○休業日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ○時間外業務80時間以上勤務者の解消。	○各分掌から削減すべき業務が提出され、現在実施に向けて検討している。 ○休業日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ○各部活動の活動時間は減少したが、一部には大会前の遠征等により超過する部活動もあった。 ○時間外業務については、29年度比28%の削減となっており、目標を達成している。	B	○来年度は、時間外勤務の上限規制が月45時間、年360時間以下となることから、削減提案のあった事業などを取り止めるなど、一層の業務改善に取り組む。 ○部活動のについては、年間計画及び月間計画の見直しを各部署が行い、活動の効率化を図る。